

新除草・調節剤

(ワイダック乳剤)
DCPA・NAC剤

ワイダック普及会

(事務局) 保土谷化学工業(株)

対象作物：水田畦畔(新規)，ミカン・リンゴ・落葉果樹

性状・作用特性：本剤は，3,4ジクロロプロピオンアニリド(DCPA)25%および1-ナフチル-N-メチルカーバメート(NAC)5%を有効成分とする混合剤で，雑草体内のDCPA分解酵素を，NACを加わえることにより抑さえ，殺草効果を高めた接触型除草剤である。殺草力が強く，草丈が60～70cmの雑草にも効果がある。土壤に落ちた薬剤は速やかに分解するので，根から吸収されることは少なく，

種子を枯らすこともないので，急激に草種が変化することがない。このようなことから，水田畦畔の除草に本剤を使用しても土砂が壊れる心配はない。毒性については，人畜，魚貝類に対して実用上殆んど問題がない。

使用方法：気温の高い時期ほど効果が高く，7月頃(梅雨明け直後の夏季高温時)夏草対象に散布するのが最も有効である。散布方法は，10アール当り製品2～3ℓを約100倍の水に溶かし，加圧式噴霧機で(低圧で)雑草の根元まで十分に濡れるように散布する。

使用上の注意：①水稻に薬液がかかると薬害が出るので雑草のみに散布する。②気温の低い春秋には効果が劣る場合がある。③降雨前後の散布は効果が劣る。④宿根性雑草は一時抑制するが，再生が早い。

第2回，植調編集委員会の開催について

去る2月8日，第2回，植調編集委員会を開催。新たに大畑徳輔先生を編集委員に迎え入れ，第3巻の編集方針につき協議したが，次のような方針で編集することになった。

編集方針

- ① 巻頭言(編集委員が輪番制で執筆)
- ② 論説(時宜に応じて，各方面の権威者に依頼)
- ③ 除草剤の利用現況と問題点(国立・都道府県立各試験場に依頼)
- ④ 試験成績の概要(事務局にて編集)
- ⑤ 文献抄録(外国文献は外国系会社に依頼，

国内文献は編集委員が編集)

- ⑥ 研究室だより(各試験場に依頼)
- ⑦ 普及だより(各都道府県庁，国立・都道府県立各試験場に依頼)
- ⑧ 除草剤解説(植調研究所で執筆)
- ⑨ 新除草剤の紹介(各メーカーに執筆を依頼し，編集委員が監修)
- ⑩ 客年12月13日に開催された，除草剤20周年記念行事で表彰された各氏のプロフィール
- ⑪ 質疑応答欄(編集委員が解答)